

## 応用数学

1

複素数平面上の関数  $f(z)$  を、領域  $|z| < 2$  で正則な関数とする。また、 $\bar{z}$  で、複素数  $z$  の共役複素数を表す。このとき、以下の問いに答えよ。

(i)  $z = x + iy$  において、 $z$  の偏微分、 $\bar{z}$  の偏微分をそれぞれ

$$\frac{\partial}{\partial z} = \frac{1}{2} \left( \frac{\partial}{\partial x} - i \frac{\partial}{\partial y} \right), \quad \frac{\partial}{\partial \bar{z}} = \frac{1}{2} \left( \frac{\partial}{\partial x} + i \frac{\partial}{\partial y} \right)$$

と定義する。このとき、 $\frac{\partial f}{\partial \bar{z}} = 0$  がコーシー・リーマン関係式と同値であることを示せ。

(ii)  $z$  の関数  $\overline{f(\bar{z})}$  が正則であることを示せ。

(iii) 複素数  $z$  の実部を  $\operatorname{Re}(z)$  であらわし、 $|a| \neq 1$  とする。このとき、複素積分

$$\frac{1}{2\pi i} \int_{|z|=1} \frac{\operatorname{Re}(f(z))}{z-a} dz$$

を求めよ。